

令和 4 年度
運営に関する計画

大阪市立玉造小学校

令和 4 年 4 月

大阪市立玉造小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価

1. 現状と課題

(1) 安全・安心な教育の推進

本校の高学年児童には、リーダーの役割を理解した主体的な行動が見られる。また、低学年にも主体的に学校をより良くしていこうとする意識が育っている。しかし、近年、児童数増加の影響等もあり、家庭環境や価値観が多様化し、社会生活の経験の差がより顕著になるなど、集団育成における課題が見られるようになった。

一方で、予測が難しい時代に入り、学校教育への期待はますます大きくなっている。グローバル化・複雑化した社会を生き抜くための、人との良好な関係を築く力、コミュニケーション力や多様な価値観を受け入れる柔軟性・寛容性、多様な考えを調整してより良い考えを構築できる創造性などの育成が求められている。また、「主体的・対話的で深い学び」を追求するためにも、集団の質や児童一人一人の生活や学習に向かう態度の向上が大きく関わると考える。

これらの課題をふまえ、本校では、引き続き、学校教育目標「豊かな人間性の育成」に向けて、児童一人一人の学習意欲や生活改善への意欲の育成、自分自身や人への理解、集団の中での役割意識、社会ルール・マナーを守った行動等を、バランスよく育成することに重点を置き、児童の主体性を生かしたこれまでの取組をさらに深化・充実させたい。

本校の児童は、落ち着いた態度で意欲的に学習に取り組むことができる。全国学力・学習状況調査の国語・算数、3年に1度の理科の平均正答率は、全国平均を上回り、無回答率も低い。大阪市小学校学力経年調査においても、全学年全教科で大阪市平均を上回り、学習内容の確実な定着が図られてきたと言える。

しかし、これから時代に必要な資質能力を育成するためには、学習指導要領及び大阪市教育振興基本計画の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の推進や、ＩＣＴ、図書の活用等により、児童の論理的思考力をさらに深め育成する必要がある。また、国際社会を生き抜くため、英語に親しみ進んでコミュニケーションをとる力も育成したい。

運動能力・運動習慣調査の調査項目全体の総合結果は、全国平均を下回る年が多い。校舎増築工事により運動場の使用が制限されていたことで、運動機会が減少していることも大きく影響していると考えられる。これまで、体育科の授業改善、児童が休憩時間に使用できる運動用具の整備を進め、様々な運動に親しませることで、「進んで運動している」児童の割合を向上させたい。また、継続的に運動能力を高める取組を行う中で、幅広い運動能力の向上をめざしたい。

(3) 学びを支える教育環境の充実

児童の学校生活の充実のためには、教職員を含め学校環境の充実が不可欠である。児童一人一人の可能性を引き出し、学力の個人差に対応するために、いつでもどこでも主体的に学べる1人1台端末を効果的に活用したい。

また、教職員の業務改善に積極的に取り組み、一人一人の教職員が、もてる資質・能力を十分発揮することで、より質の高い教育を創出したい。

2. 学校運営の中期目標 及び 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

（1）安全・安心な教育の推進

	中期目標	年度目標
全市共通目標	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年末までに、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和3年度より減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。（校内調査89%） ②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（0.7%） ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
学校の年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を令和3年度より増加させる。 ○令和7年度末の校内調査において、「自分には、良いところがある」と回答する児童の割合を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ④年度末の校内調査において、「学校の決まりを守っていますか」に肯定的に回答する児童の割合を90%以上に維持する。（95%） ⑤年度末の校内調査において、「学級・学年の活動に協力してやり遂げるよう、進んで取り組んでいる」に肯定的に回答する児童の割合を90%以上に維持する。（94%） ⑥年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思う」に肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。（89%）

（2）未来を切り拓く学力・体力の向上

	中期目標	年度目標
全市共通目標 （小・中学校）	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度、小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上に維持する。 ○令和7年度、小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対市比を、いずれの学年も8ポイント以上回る状態を維持する。 ○令和7年度までに、小学校学力経年調査における 	<ul style="list-style-type: none"> ①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上に維持する。（42.9%） ②小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。（74.8%） ④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67%以上にする。（体テ67.5%）

学校園の年度目標	<p>「外国語（英語）の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</p> <p>○令和7年度までに、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p>	<p>⑤学力経年調査の平均正答率を、大阪市平均より8ポイント以上上回るようにする。（+8.24）</p> <p>⑥年度末の校内調査において、「進んで運動をしていますか」に肯定的に回答する児童の割合を85%以上に維持する。（88%）</p> <p>⑦年度末の校内調査において、「感染症予防に気を付けて行動していますか」に肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>
----------	--	--

（3）学びを支える教育環境の充実

	中期目標	年度目標
全市共通目標	<p>○令和7年度までに、小学校学力経年調査における「タブレット端末を使った学習は楽しいですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p>	<p>①小学校学力経年調査における「タブレット端末を使った学習は楽しいですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。（64.8%）</p> <p>②1年間の時間外勤務時間が360時間以下の教員50%以上にする。</p>
学校園の年度目標	<p>○令和7年度までに、1年間の時間外勤務時間が360時間以下の教員を60%以上にする。</p> <p>○令和7年度までに、年度末の校内調査において、「読書は好きですか」に肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする。</p> <p>○令和7年度までに、年度末の校内調査において、「地域など学校の外での学習は楽しいですか」に肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>	<p>③年度末の校内調査において、「読書は好きですか」に肯定的に回答する児童の割合を、85%以上に維持する。（91%）</p> <p>④年度末の校内調査において、「地域など学校の外での学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>⑤年度末の校内調査において、「校内研究・研修は充実していた」と回答する教員の割合を80%以上にする。</p>

（4）その他

3. 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立玉造小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成できた
C：取り組んだが目標を達成できなかった

B：目標どおりに達成できた
D：ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかった

(1) 安全・安心な教育の推進

	年度目標	結果	達成状況	分析
全市共通目標	①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。(校内調査89%) ②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(0.7%) ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。			
学校の年度目標	④年度末の校内調査において、「学校の決まりを守っていますか」に肯定的に回答する児童の割合を90%以上に維持する。(95%) ⑤年度末の校内調査において、「学級・学年の活動に協力してやり遂げるよう、進んで取り組んでいる」に肯定的に回答する児童の割合を90%以上に維持する。(94%) ⑥年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思う」に肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(89%)			

指標結果 ○：目標を達成できた (○)：進行中または立案済みで達成予定 △：取り組んだが目標を達成できなかった ×：取り組むことができなかつた

年度目標①②③の達成に向けた取組【方向1 安全安心な教育環境の実現】

取組 1	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	日々の児童観察等により、早期に不登校や児童虐待の兆しを発見し、スクリーニング会議①及び②等で課題を共有、対策を検討し、支援につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめに関するアンケート」を毎学期実施し、明らかになった課題を解消する。 ・いじめ、不登校、虐待等の課題解決に向け、月1回のスクリーニング会議①・(いじめ・問題行動対策委員会)で、情報共有と対策協議を行う。 ・関係機関と連携して対策を検討し支援につなげるため、学期に1回スクリーニング会議②を開催する。 			

年度目標④の達成に向けた取組【方向1 安全安心な教育環境の実現】

取組 2	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	生活指導事案について児童が話合いで解決できるよう日常的に指導するとともに、特に、廊下の歩行などの課題に対し、生活指導部会で対策を協議し、組織的に改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導上の課題を解決するため、月1回、生活指導部会で実施情報共有、対策協議を行う。 ・毎日、登下校や廊下の歩行など、決まりを守って生活しているか、看護当番が観察し、週末に共有する。 ・7月までに、廊下の歩行の仕方を改善する取組を実施する。 			

年度目標⑤⑥の達成に向けた取組【方向 2 豊かな心の育成】

取組 3	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況	分析	次年度への改善点
	<p>児童が認め合い高め合う集団を育成するため、年度当初に学年・学級目標を設定し、互いのよさを認め合い集団の力を高める指導を意図的・計画的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級で、4月に、集団の力を高める学級目標を作成し、日常的に目標を基盤にした指導を行う。 ・全ての学級で、友達や自分のよさを認め合い高めあう取組を行う。 ・全ての学級・担当で、「人権教育・啓発推進計画」に沿って、人権教育を進める。 			

大阪市立玉造小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成できた

B：目標どおりに達成できた

C：取り組んだが目標を達成できなかつた

D：ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかつた

(2) 未来を切り拓くための学力・体力の向上

	年度目標	結果	達成状況	分析
全市共通目標	<p>①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上に維持する。(42.9%)</p> <p>②小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(74.8%)</p> <p>④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。(体テ67.5%)</p>			
学校の年度目標	<p>⑤学力経年調査の平均正答率を、大阪市平均より8ポイント以上上回るようにする。 (+8.24)</p> <p>⑥年度末の校内調査において、「進んで運動をしていますか」に肯定的に回答する児童の割合を85%以上に維持する。(88%)</p> <p>⑦年度末の校内調査において、「感染症予防に気を付けて行動していますか」に肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>			

指標結果 ○：目標を達成できた (○)：進行中または立案済みで達成予定 △：取り組んだが目標を達成できなかった ×：取り組むことができなかつた

年度目標①②⑤の達成に向けた取組【方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

取組 1	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
	論理的思考力や表現力等、児童の学力を高めるため、年間を通して主体的・対話的で深い学びを実践する。	・全ての学級・教科担当で、1日2時間以上、「3つの学 bee」を取り入れた授業を展開する。 【3つの学 bee】 ①考え方、表現する学 bee（自分の考えをもち考えを表現する） ②話し合う学び bee（話し合い、協働的に学び合う） ③めあてを振り返る学 bee			

年度目標③の達成に向けた取組【方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

取組 2	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
	児童が楽しみながら英語に親しむ外国語の学習や取組を工夫する。	・全学年、1日5分の外国語活動を年間80回以上実施する。 ・年間1回以上、外国語に親しむ取組を計画、実施する。			

年度目標④⑥の達成に向けた取組【方向 5 健やかな体の育成】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組 3	児童が主体的に学習に取り組み、運動の楽しさを味わい、体力・運動能力を向上させるため、体育科の授業を工夫・改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級で、授業の中に体力・運動能力を向上させる取組を、継続的に取り入れる。 ・全ての学級で、「3つの学 bee」のある体育授業を実践する。 ・全ての学級で、年間3回以上は、授業において I C T 機器を活用する。 			

年度目標⑦の達成に向けた取組【方向 5 健やかな体の育成】

	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
取組 4	手洗い、マスクの着用、換気、ソーシャルディスタンスの確保等、新型コロナウイルスの感染を予防する新しい生活習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級で、朝の検温、手洗い、マスクの着用、換気を実施し、不必要的接触を避けるように指導する。 ・全ての学級で、給食時、吹奏楽器の演奏時などマスクを外す全ての機会に、会話をしないよう指導する。 			

大阪市立玉造小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成できた C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成できた D : ほとんど取り組めておらず目標も達成できなかった
--	--

(3) 学びを支える教育環境の充実

	年度目標	結果	達成状況	分析
全市共通目標	<p>①小学校学力経年調査における「タブレット端末を使った学習は楽しいですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。(64.8%)</p> <p>②1年間の時間外勤務時間が360時間以下の教員を50%以上にする。</p>			
学校の年度目標	<p>③年度末の校内調査において、「読書は好きである」の肯定的回答を、85%以上に維持する。(91%)</p> <p>④年度末の校内調査において、「地域のことを学ぶ学習や活動は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>⑤年度末の校内調査において、「校内研究・研修は充実していた」と回答する教員の割合を80%以上にする。</p>			

指標結果 ○：目標を達成できた (○)：進行中または立案済みで達成予定 △：取り組んだが目標を達成できなかった ×：取り組むことができなかつた

年度目標①の達成に向けた取組【方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

取組 1	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
	タブレットを効果的に活用した学習を、積極的に取り入れ、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせた授業を行う。	・全ての学級・担当で、タブレットを活用した授業を1週間に1回は取り入れる。 ・2年生以上のすべての学級で、タブレットを1日1回は開く。			

年度目標②の達成に向けた取組【方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

取組 2	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
	教職員のもてる能力を發揮し、質の高い教育活動を創出できるよう、本来業務に専念できる環境づくりと業務の効率化・軽減を図る。	・担任教員の持ち時数を年間平均週26時間以下に設定する。 ・週2日、短縮校時を設定し、放課後の時間を確保する。 ・長期休業期間前後の始業終業日を弾力的に運用し、年間5日休業日とする。 ・NO残デーを月2回以上、設定する。			

年度目標③の達成に向けた取組【方向8 生涯学習の支援】

取組 3	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
	児童の言語能力、情報活用能力を育成するため、学校図書館の蔵書を充実させるとともに、落ち着いて読書を行うことができ、知的好奇心を醸成するような環境整備を行う。	・年度末までに、蔵書の増冊、図書館の環境整備を行う。 ・全ての学級で、学期に1回以上、国語科や読書タイムを活用して、主幹学校司書と連携し「読み聞かせ」や「ブックトーク」「アニメーション」などの読書を推進する取組を行う。			

年度目標④の達成に向けた取組【方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

取組 4	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
	地域の一員としての自覚をもち、地域を愛する児童を育てるため、地域の特性や歴史を知る学習の充実を図る。	・各学年、年間1回以上、地域を理解する学習を取り入れる。 ・各学年年間1回以上、外部講師による授業を取り入れる。			

年度目標⑤の達成に向けた取組【方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

取組 5	取組内容	取組の進捗状況を測る指標	進捗状況	分析	次年度への改善点
	教職員の資質・能力を向上させるため、研究・研修を計画的に実施しするとともに、研究・研修内容の充実を図る。	・年間に3回以上、教職員の研修を実施・参加する。 ・各学年・担当で、年間1回以上、研究授業を行う。			